



2021年 5 月18日

各 位

会 社 名 株式会社NexTone
代 表 者 氏 名 代 表 取 締 役 C E O 阿南 雅浩
(コード番号：7094 東証マザーズ)
問い合わせ先 執行役員経営管理本部長 桃枝 宏之
(TEL:03-5766-8086)

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

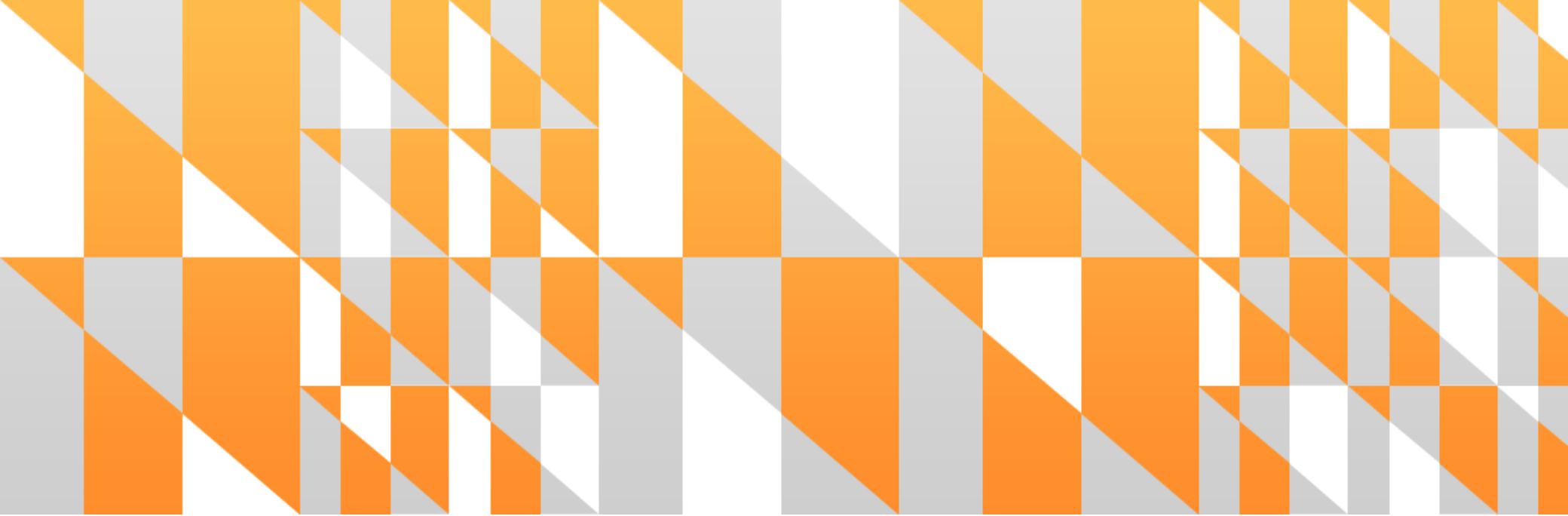
○開催状況

開催日時	2021年 5 月18日 (火) 15:00～16:00
開催方法	ライブ配信による実開催
開催場所	東京都渋谷区広尾一丁目 1 番39号 恵比寿プライムスクエアタワー 8階 当社会議室
説明会資料名	2021年 3 月期 決算説明資料

【添付資料】

投資説明会において使用した資料

以 上



2021年3月期 決算説明資料

2021年5月

株式会社NexTone

東証マザーズ コード：7094

I

2021/3期 決算概要

II

2022/3期 決算見通し

III

戦略対応の進捗状況など

APPENDIX

2021年3月期 業績ハイライト

取扱高
131.8
(億円)
前年比
+39.0%

売上高
61.2
(億円)
前年比
+40.9%

営業利益
5.3
(億円)
前年比
+76.5%

管理楽曲数
22.2
(万曲)
前期末比
+29.4%

取扱原盤数
77.8
(万原盤)
前期末比
+24.3%

決算概要 P.5へ

2022年3月期 通期業績予想

売上高 **79.7億円 (+30.2%)**、営業利益 **7.3億円 (+35.4%)**、営業利益率**9.2% (+0.4P)**

業績予想 P.18 へ

2021/3期 決算概要

2021/3期 決算概要

5

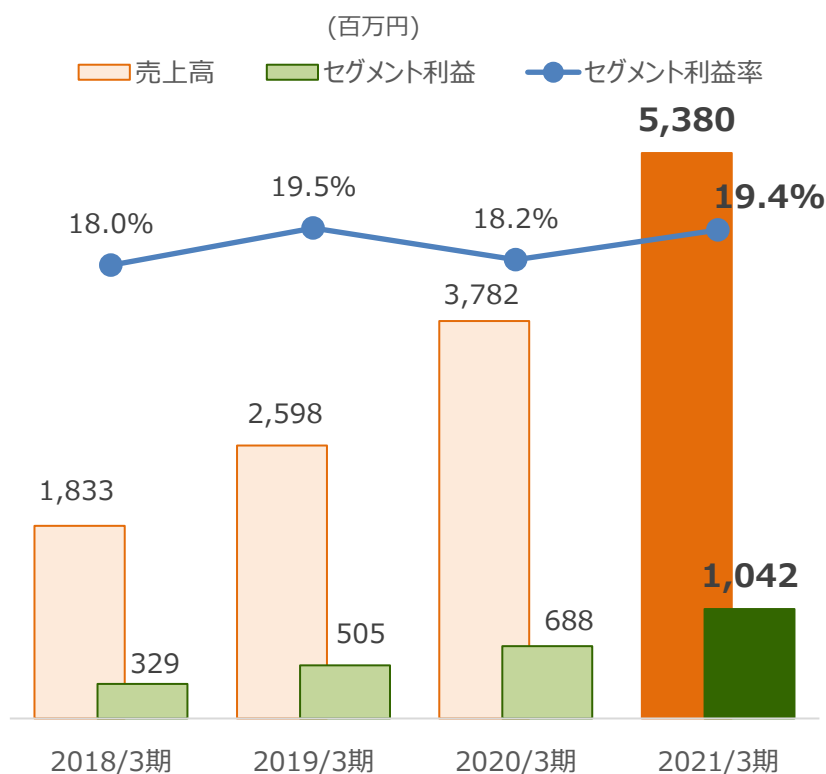
- ✓ 41%増収、83%経常増益。経常利益率は9%弱まで上昇。直近想定に対しても若干の超過達成
- ✓ セグメント別でも、著作権等管理事業、キャスティング事業は揃って大幅伸長。管理楽曲数は29%増加

(百万円)	2020/3期	2021/3期		前期比		直近予想比 増減額
		直近予想 (2021/2/10)	実績	増減額	増減率	
売上高	4,345	6,000	6,122	+1,777	+40.9%	+122
著作権等管理	3,782	5,300	5,380	+1,598	+42.3%	+80
キャスティング	459	600	654	+195	+42.5%	+54
その他	103	90	87	▲16	▲15.5%	▲3
営業利益	305	500	539	+234	+76.5%	+39
著作権等管理	688	1,000	1,042	+354	+51.5%	+42
キャスティング	36	50	56	+20	+55.6%	+6
その他	17	30	32	+15	+88.2%	+2
経常利益	295	500	540	+245	+83.1%	+40
親会社株主帰属当期純利益	191	300	376	+185	+96.9%	+76
営業利益率	7.0%	8.3%	8.8%	+1.8p	—	+0.5p
経常利益率	6.8%	8.3%	8.8%	+2.0p	—	+0.5p
翌期初管理楽曲数 *	171,551	221,000	222,049	+50,498	+29.4%	+1,049
取扱原盤数	626,459	—	778,681	+152,222	+24.3%	—

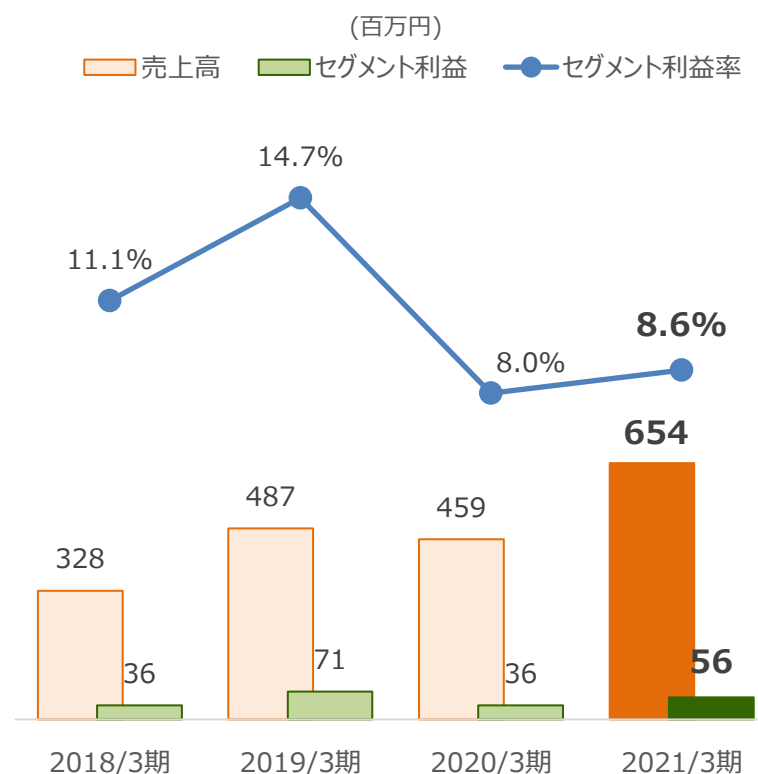
* 期末（3/31）時点の管理楽曲数に、翌期初（4/1）に他管理事業者から移管予定の楽曲数（速報値）を加算した数

- ✓ 主力の著作権等管理事業は非常に好調に推移。管理楽曲数の増加や配信市場の拡大、DD(デジタルコンテンツディストリビューション：音楽配信プラットフォーム向けコンテンツの提供)のニーズ拡大が貢献
- ✓ キャスティング事業も、上半期はライブ機会の減少や大型プロジェクトの一巡などから苦戦となったものの、徐々に家庭向けライブ配信サポートなど新たなビジネス機会も発生。結果的に増収の確保に成功

著作権等管理事業



キャスティング事業



2021/3期 四半期別業績推移

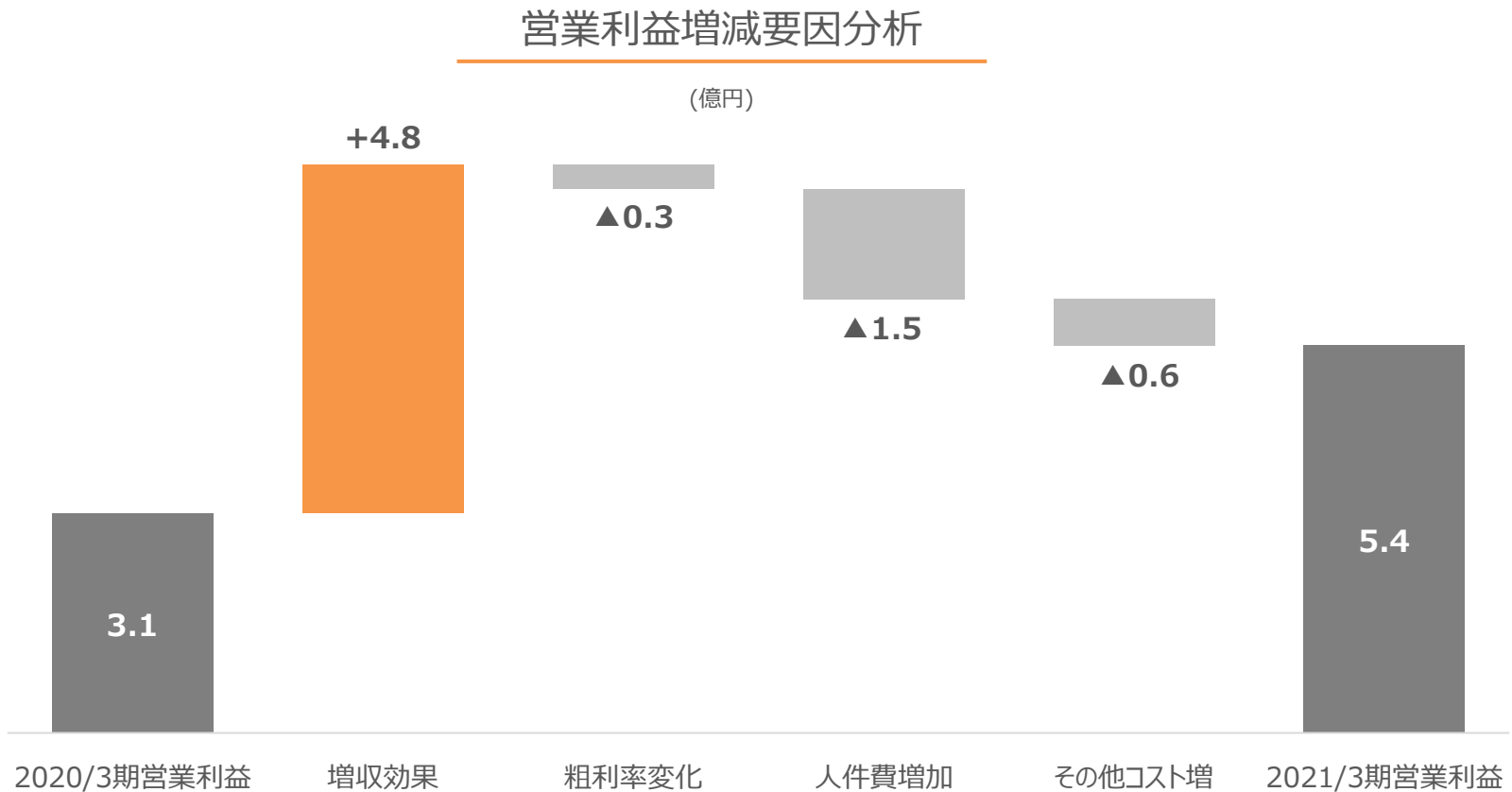
7

- ✓ 4Qのみでは対3Q比で減収減益。著作権等管理事業は順調な拡大となったものの、キャスティング事業において人気アーティストに関連する家庭向けライブ配信サポートといった大型案件一巡が影響
- ✓ ただし、対前年比では増収増益基調を堅持。コロナ禍においても、ビジネス基盤は着実に強化進む

(百万円)	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	855	1,193	1,133	1,164	1,294	1,350	1,866	1,612
著作権等管理	787	923	1,003	1,069	1,268	1,263	1,370	1,478
キャスティング	34	245	109	72	3	64	474	112
その他	32	26	21	23	22	23	21	21
営業利益	59	72	121	53	121	96	184	138
著作権等管理	153	177	175	184	271	198	286	287
キャスティング	5	21	18	▲7	▲7	10	34	19
その他	4	7	4	2	10	12	2	7
調整	▲103	▲133	▲76	▲126	▲153	▲124	▲138	▲175
経常利益	60	72	119	44	121	96	184	139
親会社株主帰属 当期純利益	46	50	81	14	82	66	126	102
営業利益率	7.0%	6.0%	10.7%	4.6%	9.4%	7.1%	9.9%	8.6%
管理楽曲数 (累計)*				167,538	179,741	193,470	207,145	221,047
取扱原盤数 (累計)				626,459	656,923	701,823	733,891	778,681

* 期末 (3/31) 時点の管理楽曲数。翌期初 (4/1) に他管理事業者から移管予定の楽曲数 (速報値) は含まない。

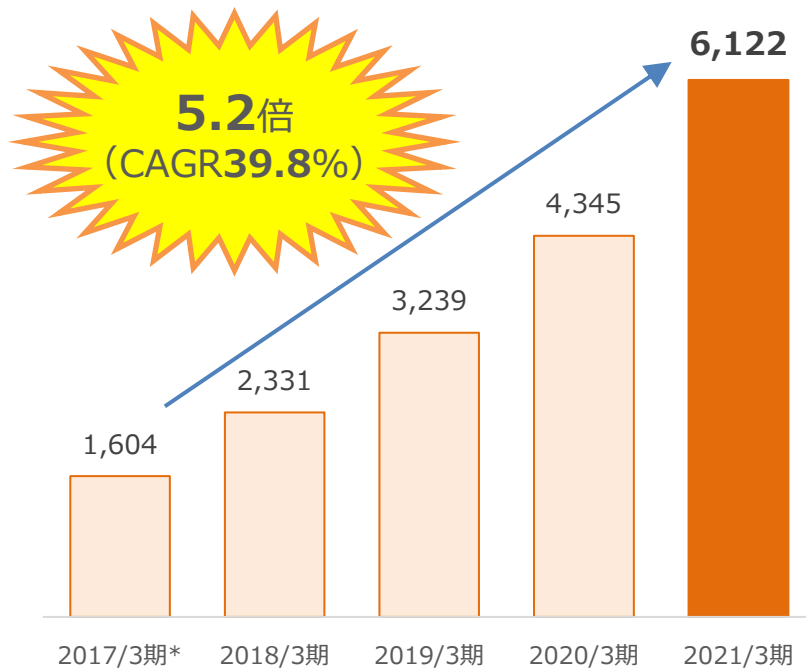
- ✓ 大幅増益の主な要因は著作権等管理事業を軸とした増収効果
- ✓ コスト面では業容拡大に伴う人件費増などが引続き発生。これらは成長に向けての先行投資と位置付けるが、増収効果で吸収し、営業利益は76%の増加に



- ✓ 当社発足（2016/3期）以降、売上高は年率4割弱で成長。2021/3期は発足以降 5 期連続となる過去最高の更新を達成。新作を中心に管理楽曲獲得の増加を背景に、成長ピッチは継続
- ✓ 経常利益、経常利益率も 4 期連続で増加/上昇を達成

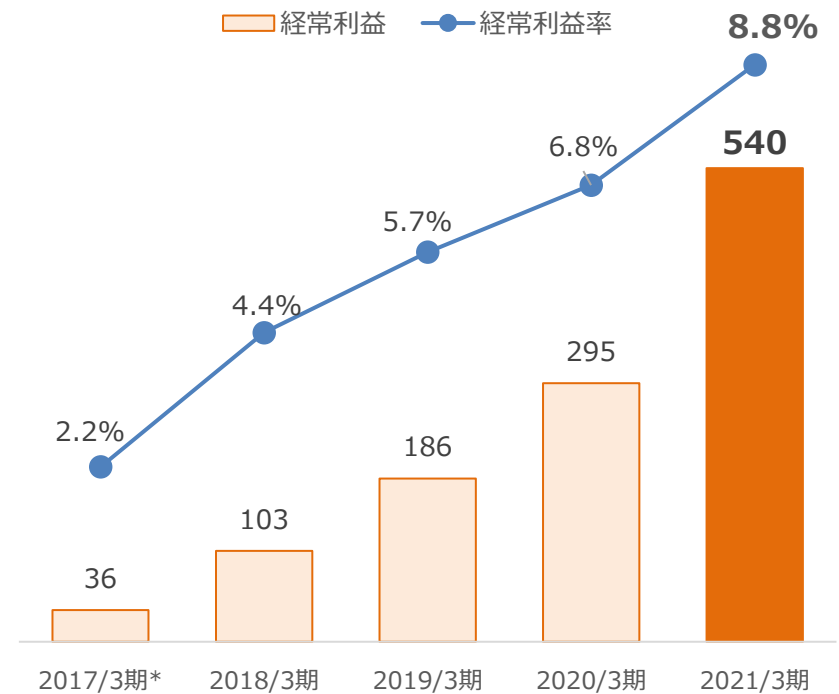
売上高

(百万円)



経常利益、同利益率

(百万円)



*単体決算

事業規模の推移①

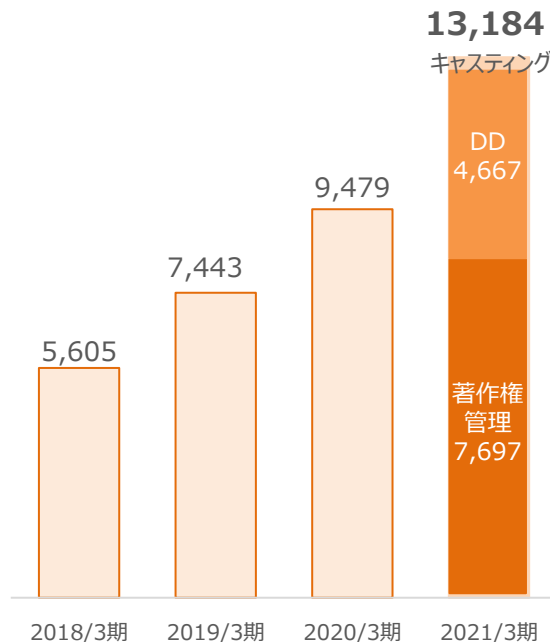
10

- ✓ 取扱高（総入金額）は直近4年で2.3倍に拡大。2021/3期は39%増と、過去の平均成長率を上回るペース
- ✓ 取扱高の基礎となる管理楽曲数は2021/3期末で22万曲に到達。うち、5万曲は期中新譜

取扱高

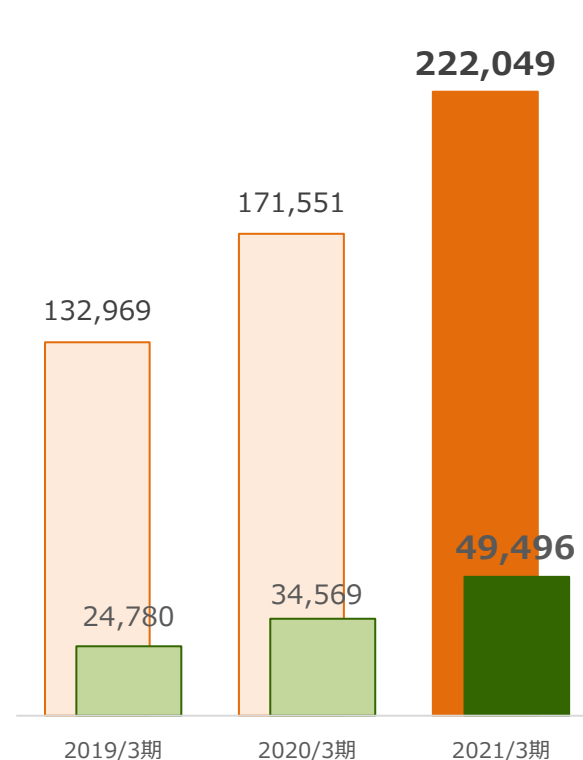
(百万円)

DD/キャスティング：取扱高 = 売上高
著作権管理：取扱高 = 徴収額
(売上には当社手数料分のみを計上)



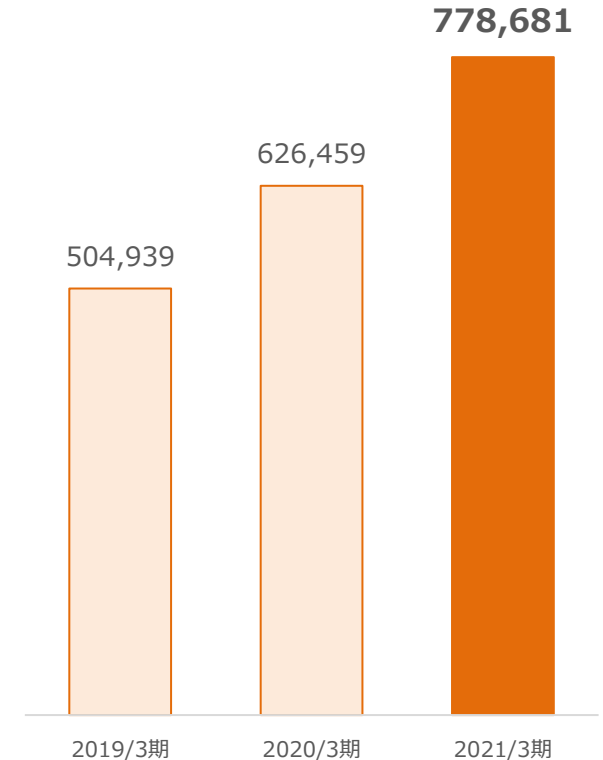
著作権管理楽曲数

管理楽曲数(曲)^{*} 新譜の楽曲数(曲)^{**}



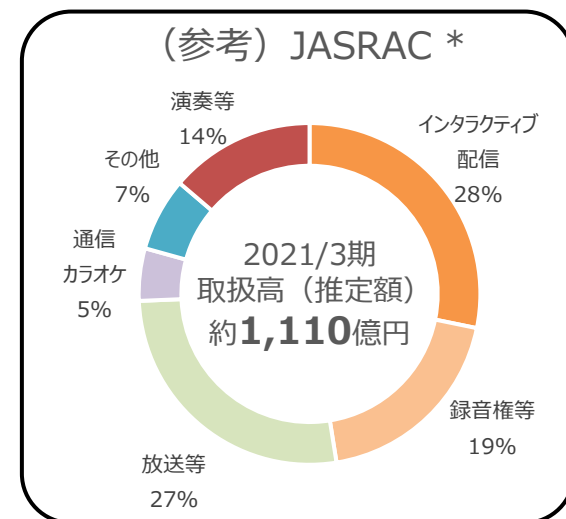
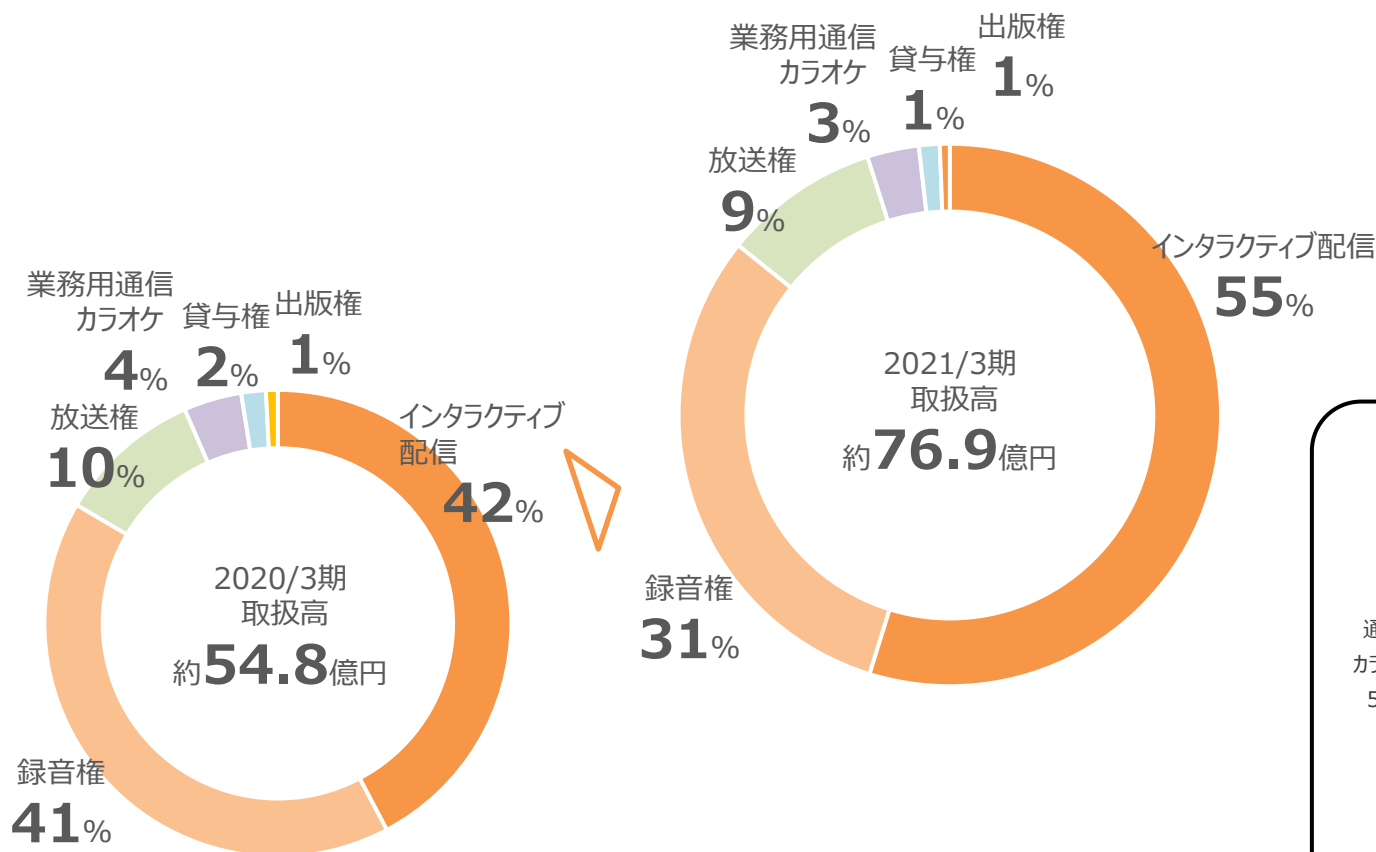
取扱原盤数

(原盤)



* 期末（3/31）時点の管理楽曲数に、翌期初（4/1）に
他管理事業者から移管予定の楽曲数（速報値）を加算した数
** 翌期初の移管予定楽曲を含めず、新譜のみ

- ✓ 2021/3期の著作権管理における取扱高（総入金額）では、インタラクティブ配信が全体の55%にまで急成長。デジタル配信向けニーズの拡大を受け、昨年との比較では構成比が13ポイント拡大
- ✓ 一方、録音権、放送権、業務用通信カラオケはインタラクティブ配信の伸びには及ばずその構成比率が低下したものの、いずれも絶対額では増加。なお、当社はカラオケ演奏権は管理業務外であり、コロナ禍の影響は軽微

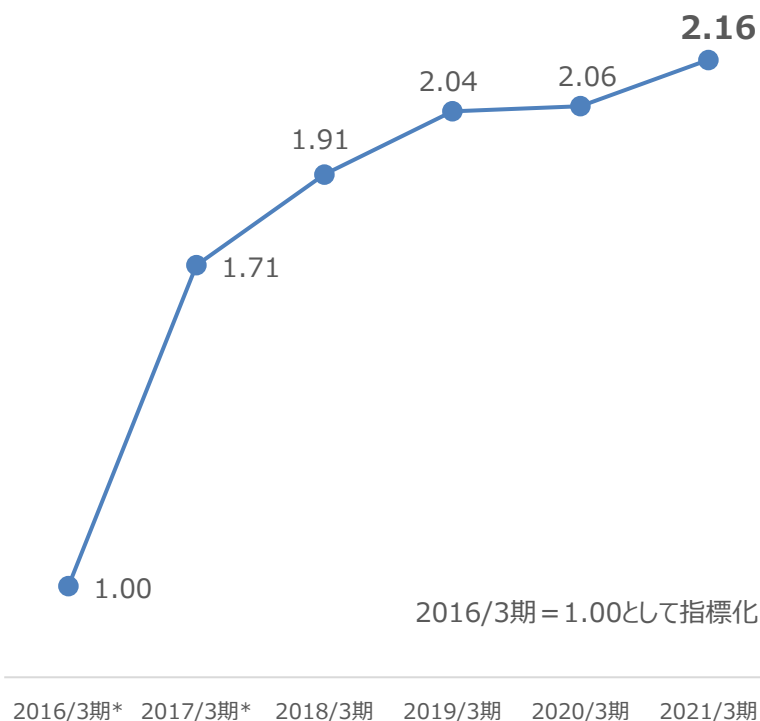


*一般社団法人日本音楽著作権協会

<https://www.jasrac.or.jp/index.html>

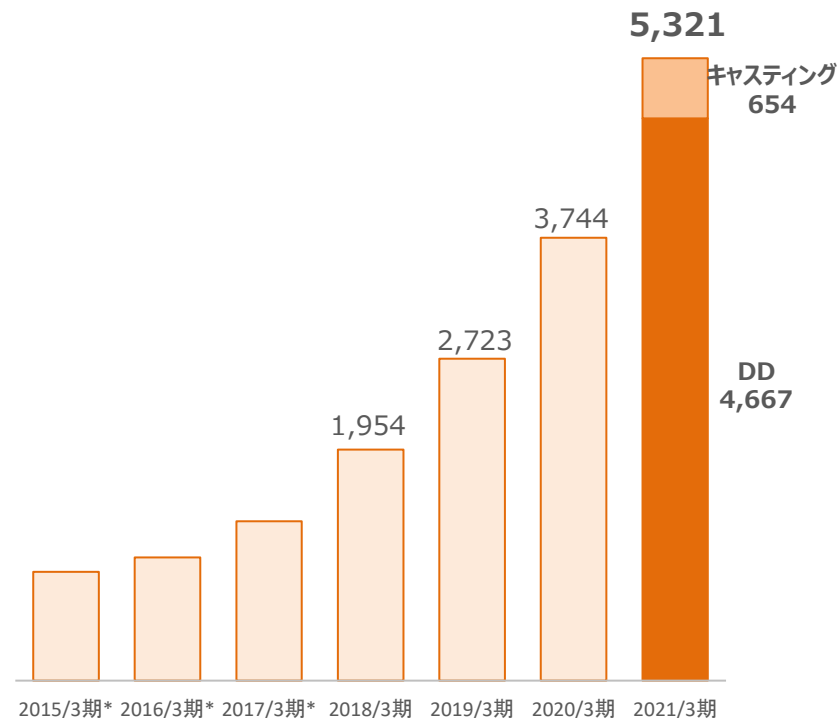
- ✓ 楽曲当たり徴収額は引き続き上昇。管理楽曲数は増加しつつも、ヒット曲や話題曲となる傾向の高い新作の取込み好調が貢献。これまでやや上昇ペースが鈍化していた徴収単価は再度上昇に弾み
- ✓ プロモーターとしての役割を担う利用促進関連売上高は順調に拡大。牽引役は引続きDD。全社売上の87%をこの利用促進カテゴリーが占める

楽曲当たり徴収額推移



利用促進関連売上高推移

(百万円)



* 単体決算

著作権管理業務：2021/3期の主な徴収額上位楽曲 (五十音順)

13



「イエスタデイ」
Official髭男dism
©PONYCANYON



「香水」
瑛人



「チェリー」
スピッツ
©UNIVERSAL J / UNIVERSAL MUSIC LLC.



「115万キロのフィルム」
Official髭男dism
©Lastrum Music Entertainment Inc.



「まちがいさがし」
菅田将暉
素材提供：ソニー・ミュージックレーベルズ



「マリーゴールド」
あいみょん
©Warner Music Japan Inc.

DD業務：2021/3期の主な徴収額上位原盤 (五十音順)

14



アトラスサウンドチーム
「『ペルソナ 5』オリジナル・サウンドトラック」
©ATLUS ©SEGA All rights reserved.



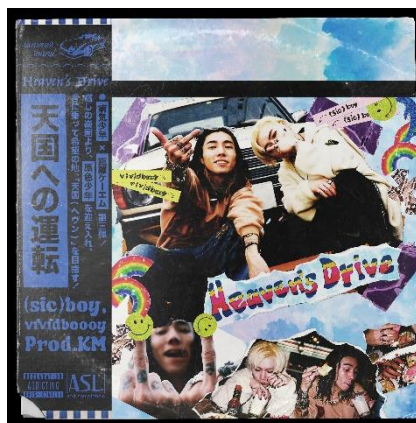
Official髭男dism
「115万キロのフィルム」
©Lastrum Music Entertainment Inc.



Kanaria
「KING」
©のう



カンザキイオリ
「命に嫌われている。」
©KAMITSUBAKI RECORD



(sic)boy
「Heaven's Drive
feat.vividboooy(Prod.KM)」
©add.some labels

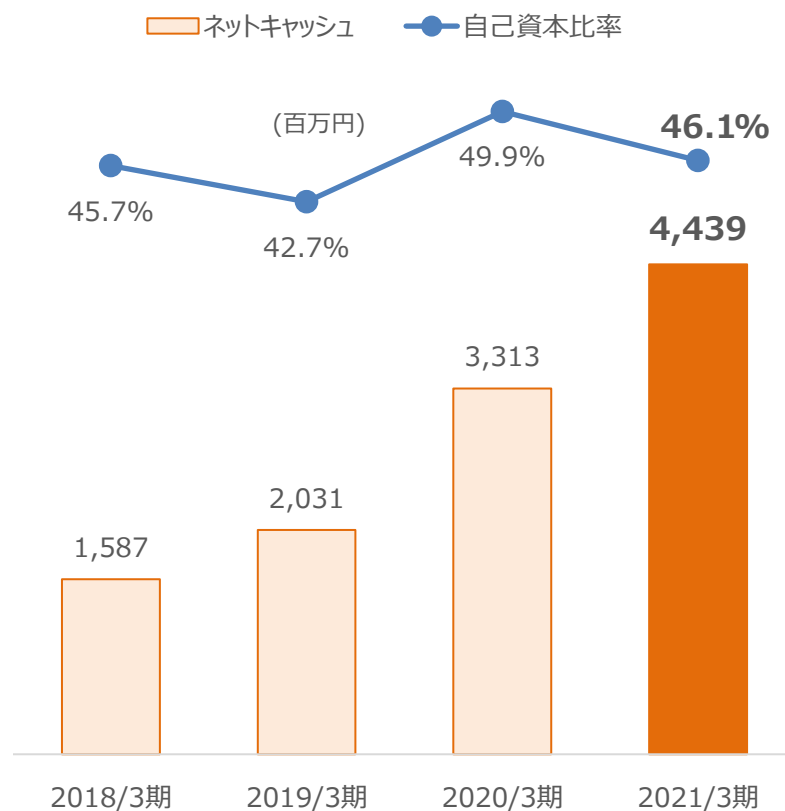


ヨルシカ
「ただ君に晴れ」
©U & R records

- ✓ 無借金経営を継続。ネットキャッシュは44億円と総資産の8割を占める
- ✓ 資産勘定では業績好調から現預金が増加。それに対応する負債/資本勘定では、自己資本の拡大に加え、事業拡大に応じた権利者への分配や法人税などの未払金が増加。期末の自己資本比率は46%

(百万円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	前期比増減
流動資産	2,594	3,630	4,845	+1,215
現預金	2,031	3,313	4,439	+1,126
売掛債権	441	175	243	+68
固定資産	541	615	747	+132
無形固定資産	432	476	562	+86
総資産	3,135	4,246	5,592	+1,346
負債	1,792	2,126	3,015	+889
買入債務	565	505	641	+136
未払金	810	1,112	1,835	+723
未払法人税等	49	120	158	+38
純資産	1,343	2,120	2,577	+457
負債純資産合計	3,135	4,246	5,592	+1,346

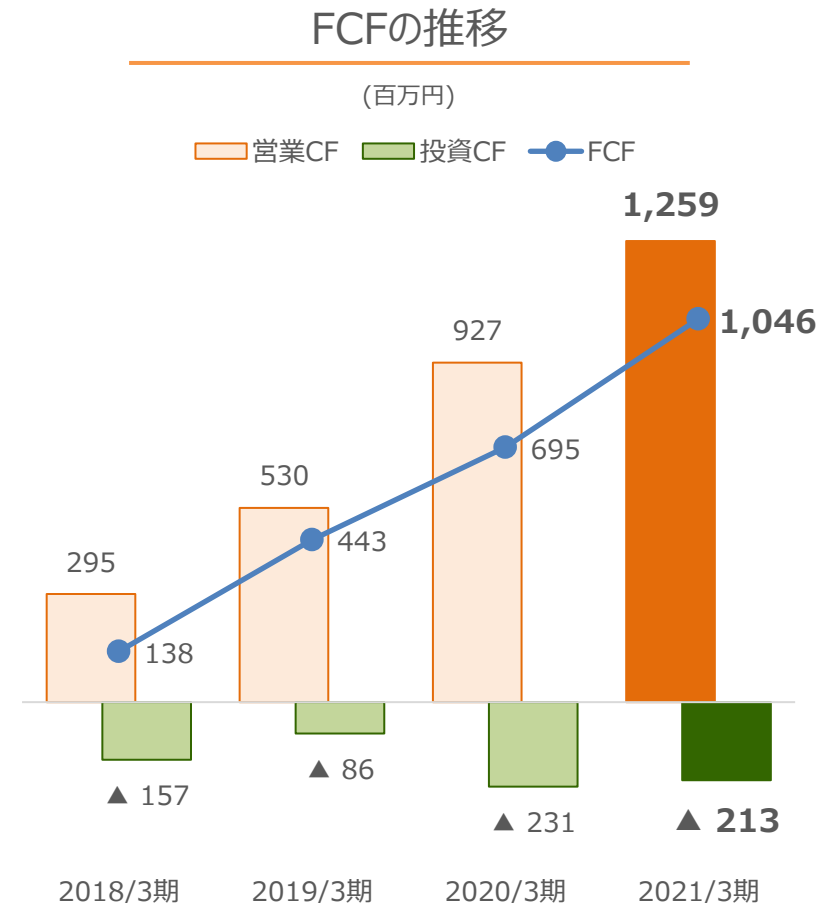
財務状況の推移



- ✓ 競争力の源泉となるシステム開発を中心に設備投資は積極的に計上。しかし、それ以上に管理楽曲数の増加やプロモーション売上の拡大により営業CFが拡大。FCFは大幅な黒字を継続
- ✓ 前期末には上場資金収入も発生。これを受けて、期末現預金は11億円増の44億円に

(百万円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	前期比増減
営業CF	530	927	1,259	+332
投資CF	▲ 86	▲ 231	▲ 213	+18
固定資産取得	▲ 89	▲ 121	▲ 204	▲ 83
FCF	443	695	1,046	+351
財務CF	▲ 15	586	79	▲ 507
借入金の返済	▲ 15	0	0	-
株式発行収入	0	586	79	▲ 507

* FCF=営業CF+投資CF で算出



2022/3期 決算見通し

2022/3期 決算見通し

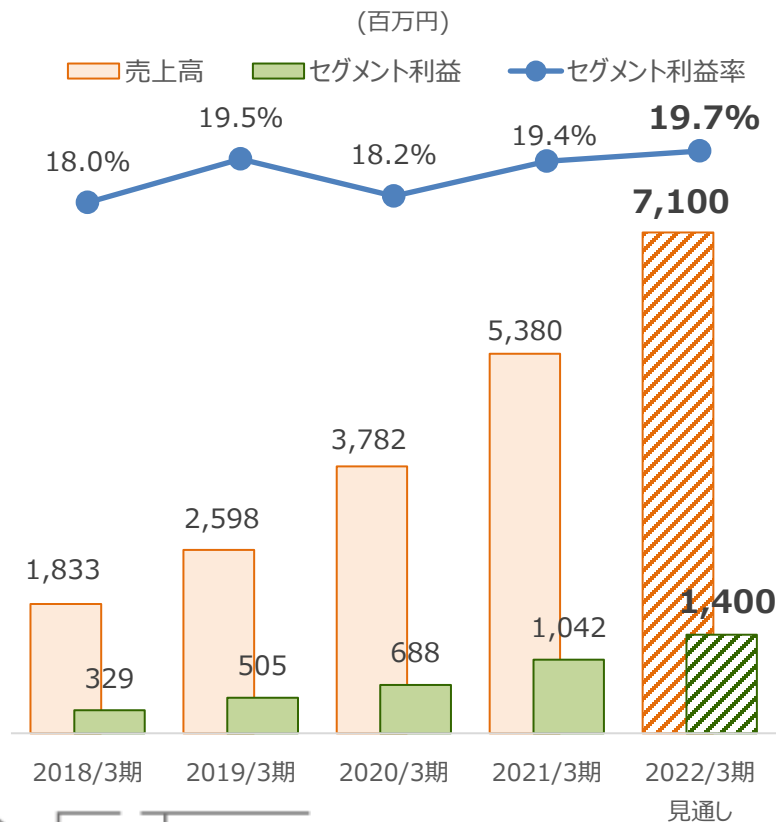
18

- ✓ 管理楽曲数の28%増を前提に、30%増収、35%営業増益を想定。YouTubeを筆頭に配信関連の大幅増などにより、著作権使用料及び原盤使用料が引き続き好調、増収基調を維持する見通し
- ✓ 利益面では、人件費やシステム等のインフラ整備を積み増してもなお、大幅増益を想定
- ✓ 2021年4月に開始した海外徴収の入金は下期以降のため、業績に与える影響は軽微

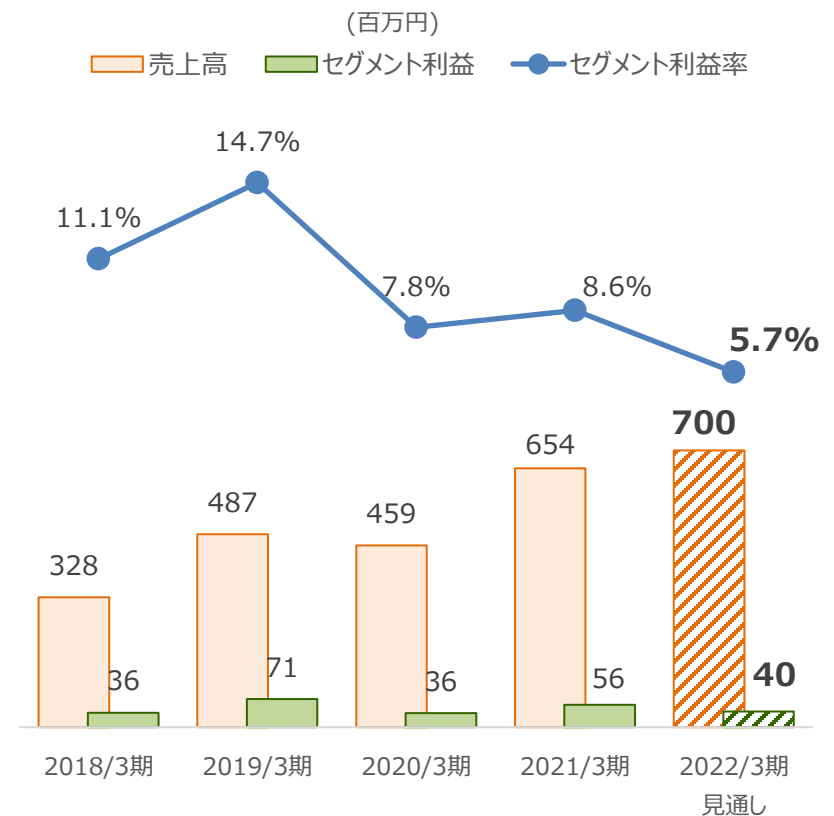
(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期 見通し	前期比	
				増減額	増減率
売上高	4,345	6,122	7,970	+1,848	+30.2%
著作権等管理	3,782	5,380	7,100	+1,720	+32.0%
キャスティング	459	654	700	+46	+7.0%
その他	103	87	80	▲7	▲8.0%
営業利益	305	539	730	+191	+35.4%
著作権等管理	688	1,042	1,400	+358	+34.4%
キャスティング	36	56	40	▲16	▲28.5%
その他	17	32	10	▲22	▲68.8%
経常利益	295	540	730	+190	+35.2%
親会社株主帰属当期純利益	191	376	460	+84	+22.0%
営業利益率	7.0%	8.8%	9.2%	+0.4P	—
経常利益率	6.8%	8.8%	9.2%	+0.4P	—
翌期初管理楽曲数	171,551	222,049	285,000	62,951	+28.4%

- ✓ 著作権等管理事業では、管理楽曲数・取扱原盤数の増加と配信市場伸長を背景に著作権管理・DDともに大幅増収見通し。DDは周辺事業も拡大。人件費やシステムコストの増加を増収効果で吸収
- ✓ キャスティング事業では、イベント中止等がある程度織り込み、代替利用としての家庭向けライブ配信サポート等新規案件を積極展開。売上は引続き伸びを目指すも、サービス構成の変化によりセグメント利益率は低下を見込む

著作権等管理事業



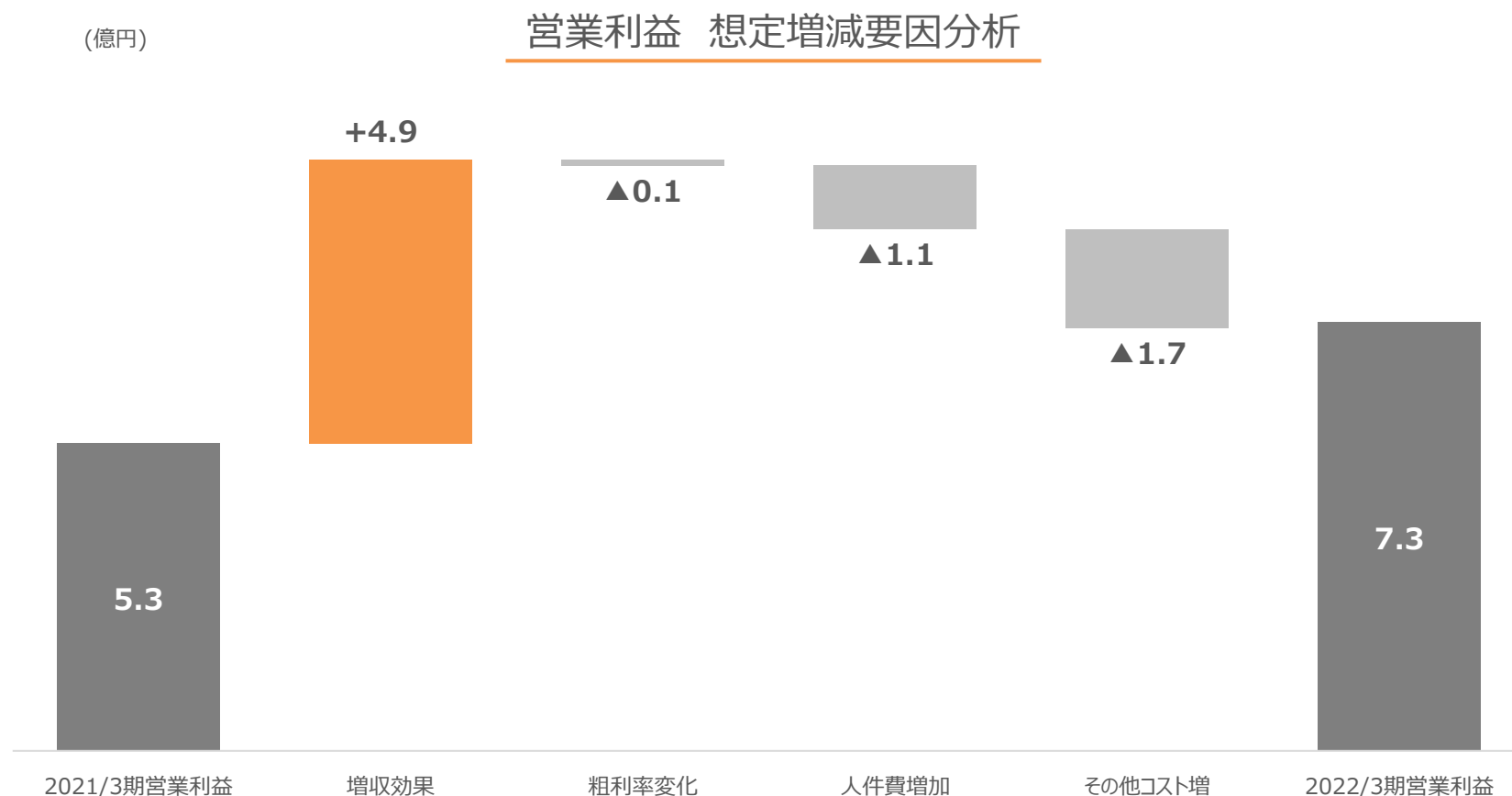
キャスティング事業



営業利益 想定増減要因分析

20

- ✓ 増益見通しの牽引役は引き続き著作権等管理事業の拡大。著作権管理・DDともに売上高30%増を見込み、増益に貢献
- ✓ 一方、コスト面では人件費増が継続、家賃増やインフラ関連費用の他、著作権等管理事業で使用するシステム開発費・償却負担増などが発生するも増収効果で吸収し、営業利益は35%増を予想する



戦略対応の進捗状況など

演奏権参入

- ✓ 2022年4月からJASRACの演奏権分野が3区分に細分化される見通しとなり、カラオケ演奏を含む区分以外の2区分に参入できる可能性
- ✓ JASRAC理事会承認済み、6月末の同社社員総会決議事項



2022年4月1日より一部管理開始予定

管理範囲拡大

- ✓ 新譜の獲得、旧譜の移管促進と並行して、当社管理楽曲の委託範囲を拡大することにより、更なる取扱高増を目指す
- ✓ 著作権管理市場の約30%を占める放送・有線放送分野の管理率が競合に比較して著しく低く、重点的な課題と位置付ける

昨年度来の新規事業 への取組み拡充

- ✓ 家庭向けライブ配信サポート
- ✓ YouTube：音楽カバー動画の収益向上施策「CRIP」
- ✓ ArtLed：アーティストの意思を尊重し自由な活動をサポートする新しいDDサービス

新規事業取組み例 P.25 へ

現状の当社管理区分

- ✓ 音楽著作権は、4つの支分権（①～④）と7つの利用形態（⑤～⑪）により形成
- ✓ 当社は現状、演奏権等（①）を除くすべての領域（②～⑪）を管理

①演奏権等	②録音権等	③出版権等	④貸与権
・ コンサートでの演奏 ・ カラオケ演奏 ・ 店舗内BGM ・ 映画館での上映、等	・ CDの複製、等 ⑤映画への録音 ⑥ビデオグラム等への録音 ⑦ゲームへの録音 ⑧広告目的で行う複製 ・ テレビ/ラジオCMへの複製 ・ インターネットCMへの複製 ・ 広告印刷物への歌詞の複製、等	・ 歌詞集の印刷 ・ 楽譜の印刷、等	・ CDレンタル
⑨放送・有線放送 テレビ／ラジオでの放送、等			
⑩インタラクティブ配信 スマートフォン/パソコンへの配信、等			
⑪業務用通信カラオケ カラオケ施設での歌唱のための複製、公衆送信、等			

JASRAC管理委託範囲選択区分「①演奏権等」の細分化（予定）

<現行>

①演奏権等

演奏等（演奏・上演・上映・口述・伝達）全般



<変更案>

第1区分

- ・コンサートその他の催物における演奏等
- ・第2区分・第3区分に該当しない演奏等

第2区分

- ・カラオケ演奏等
- ・社交場における演奏等

第3区分

- ・映画等の上映
- ・遊技機（パチンコ、ゲーム等）等の上映・演奏
- ・店舗内BGM

（参入予定区分）

上記**第1区分および第3区分**に2022年4月1日から参入を目指す。第2区分への参入については継続検討

「Contents Passport」(読み: コンテンツパスポート)

DD業務におけるマーケティング機能等を強化した次世代原盤管理システム
より高精度なディストリビューションサービスが実現し、権利者の利益を最大化
(当社HPお知らせ) <https://bit.ly/3be7meT>



「CRIP (Cover Revenue Improvement Project)」(読み: クリップ)

YouTube における音楽カバー動画 (歌唱カバー、演奏カバー等の動画) の収益向上施策
(当社プレスリリース) <https://bit.ly/3e1IA3o>



「ArtLed」(読み: アートレッド)

アーティストの意思を尊重し自由な活動をサポートする施策
国内に競合がないアーティスト主体の新しいDDサービス
(ブランドティザーサイト) <https://artist-led.com/>

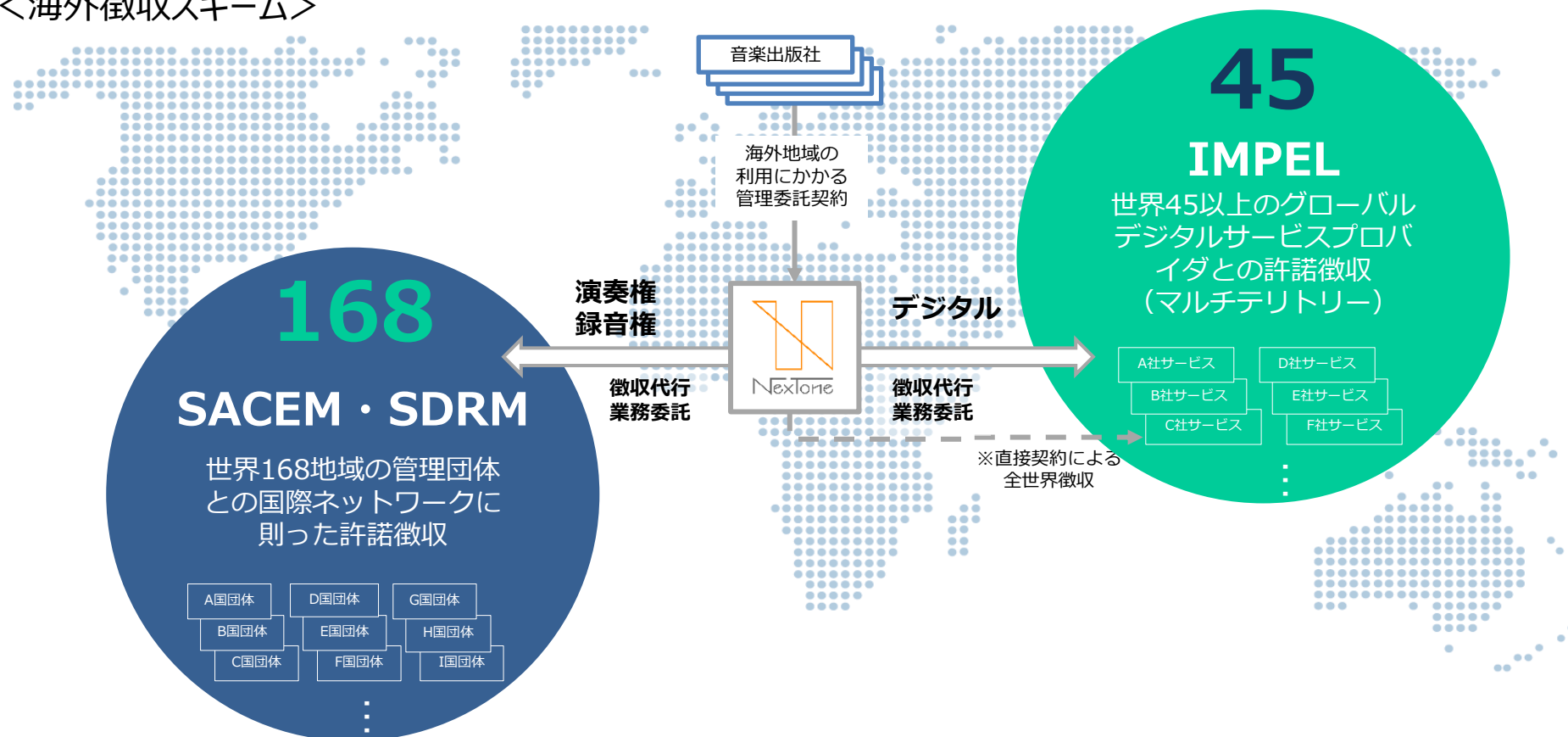
ArtLed

海外徴収

2021年4月1日より管理開始

- ✓ 欧州の著作権管理事業者「SACEM」「SDRM」「IMPEL」と、当社管理作品の海外利用における著作権使用料の徴収代行契約を締結
- ✓ 著作権協会国際連合（CISAC）と Client RME 契約を締結

<海外徴収スキーム>

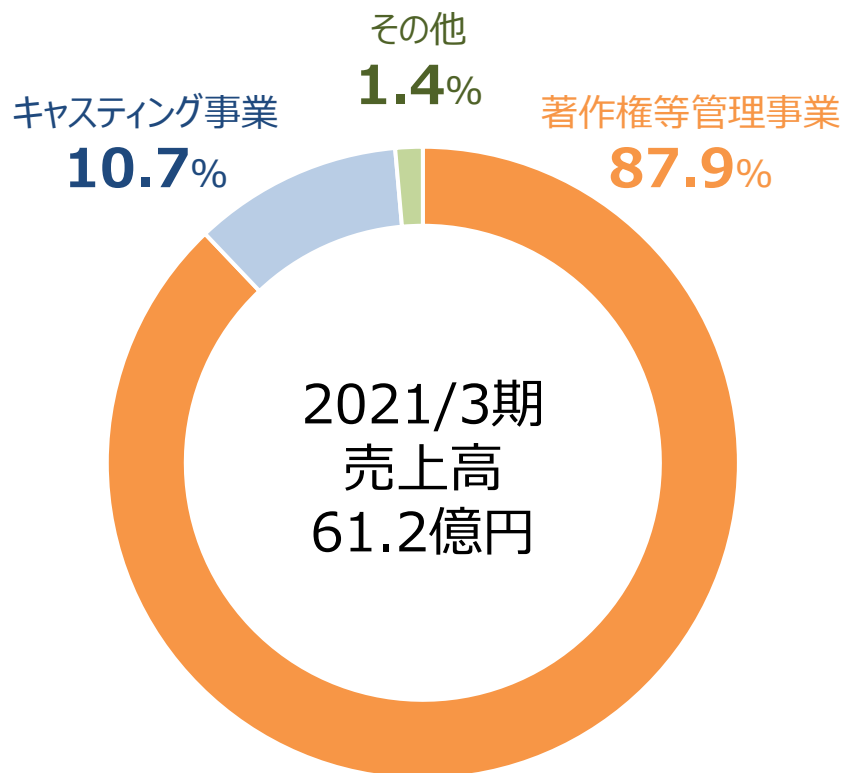


APPENDIX

社 名	株式会社NexTone [英語名：NexTone Inc.]			
代 表 者	代表取締役CEO 阿南 雅浩			
設 立 年 月	2000年9月			
本 社 所 在 地	東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー20F			
資 本 金	1,152,882千円（2021年3月末）			
役 員 構 成	代表取締役CEO	阿南 雅浩	常勤監査役	佐藤 俊樹
	代表取締役COO	荒川 祐二	社外監査役	小林 伸之
	専務取締役	名越 禎二	社外監査役	大嶋 敏史
	社外取締役	高橋 信彦		
	社外取締役	升本 喜郎		
事 業 内 容	著作権等管理事業/キャスティング事業/その他			
売 上 規 模	6,122,925千円（2021年3月期）			
従 業 員 数	80名（2021年3月末）			
総 資 産	5,592,819千円（2021年3月末）			
主 な 取 引 先	エイベックス・グループ、(株)アミューズ、(株)ドワンゴ、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント、 (株)ワーナーミュージック・ジャパン、iTunes(株)、(株)レーベルゲート、(株)SDR、(株)レコチョク、Google他			

- ✓ 「著作権等管理事業」、「キャスティング事業」及び「その他」の事業セグメントで構成
- ✓ 全社売上の9割弱を占める「著作権等管理事業」は管理業務と配信プラットフォーム向けコンテンツ供給が主体
- ✓ 「キャスティング事業」「その他事業」でも音楽出版社、アーティスト等、音楽産業に携わる皆さまを幅広くサポート

売上構成



■ 著作権等管理事業

➤ 著作権管理

- ・ 著作権者から委託を受けた音楽著作物の利用許諾
- ・ 著作物使用料の徴収・分配業務など

➤ デジタルコンテンツディストリビューション(DD)

- ・ 国内外の音楽配信プラットフォームに向けた音楽・映像コンテンツの供給

■ キャスティング事業

➤ キャスティング・コンサルティング

- ・ アーティスト稼働やライブへのユーザー招待、楽曲タイアップに関わる音楽コンテンツの権利処理等を通じたコンテンツ利用促進コーディネート、家庭向けライブ配信サポート等

➤ ODSサポート ※

- ・ ライブビューイング／映画配給・宣伝
- ・ 映画館を利用したイベントコーディネート等

■ その他

- 著作権・原盤権等の権利処理システムの開発・提供、コンテンツ配信関連のシステム開発・提供、及び、各種社内システムの開発・運用など

※ ODS Other Digital Stuff（非映画デジタルコンテンツ）
映画館で上映される映画以外（音楽コンサート、スポーツ、演劇、その他ステージイベント等）のデジタル映像作品

著作権等管理事業

著作権管理業務

「歌詞」「メロディ」の管理

著作権者からの委託を受け、
音楽著作物の利用の許諾と
使用料の徴収・分配

＜権利者＞
音楽出版社

利用者から徴収する
著作権使用料のうち
当社**手数料分のみを売上計上**

DD業務 ※1

「オリジナル音源」「MV※2」の供給

国内・海外の音楽配信
プラットフォームに向けた
音楽・映像コンテンツの供給

＜権利者＞
レコードメーカー、プロダクション

配信実績に応じて
プラットフォームから入金される
原盤使用料を売上計上

※1 デジタルコンテンツディストリビューション業務

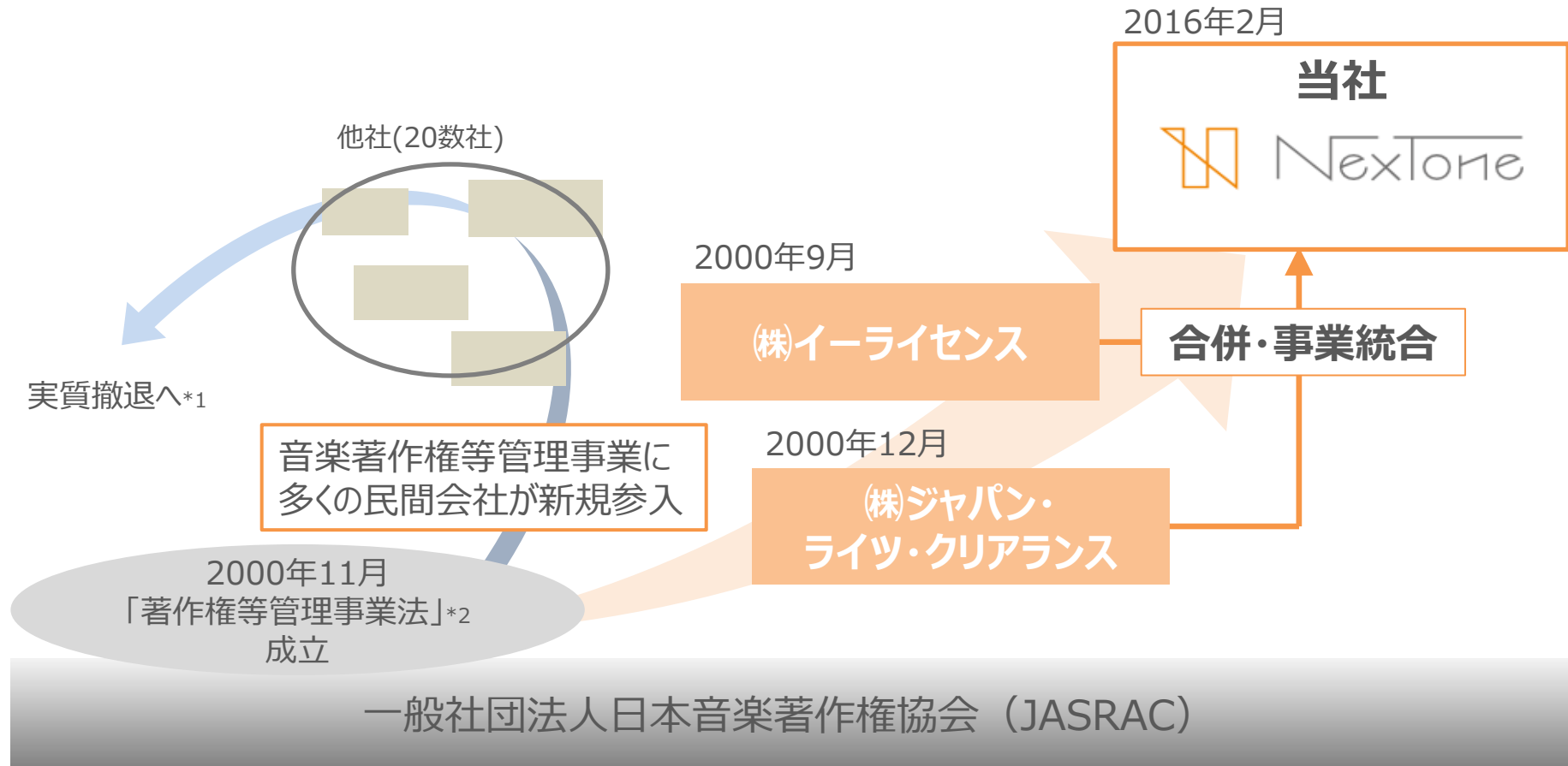
※2 ミュージックビデオ

- ✓ 配信、録音、出版、貸与等は利用時期と売上計上時期に1四半期分のタイムラグが存在
- ✓ 放送、業務用通信カラオケは2四半期分のタイムラグが存在
- ✓ DD業務、キャスティング事業は1か月のタイムラグが存在

＜配信・録音・出版・貸与等の場合＞



- ✓ 「著作権等管理事業法」施行により、デジタル化の進展を想定した多数の民間企業が当事業に参入
- ✓ 当社はその中の2社「(株)イーライセンス」・「(株)ジャパン・ライツ・クリアランス」が合併統合し発足
- ✓ しかし、デジタル化ピッチは加速せず、各社実質撤退。現在は、老舗のJASRACと当社の2社が実質活動中



*1: 企業登録は残っているものの、楽曲管理はJASRACに既に移管している状態

*2: 「著作権等管理事業法」成立前は、一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)が法律「著作権二関スル仲介業務二関スル法律」で唯一認可された管理事業者

年	月	株式会社イーライセンス
2000年	9月	著作権等管理事業を主たる目的とし、東京都港区南麻布3丁目に株式会社イーライセンス（現：当社）を設立
2001年	9月	100%子会社として音楽出版及び出版代行業務を行う株式会社エムシージェイピー（以下「MCJP」）を設立
2001年	10月	著作権等管理事業法施行を受け、民間としては初の著作権管理事業者としての届出を行う（登録番号：01005）
2002年	4月	ヒットゲーム音楽や人気インディーズミュージシャンなどの作品を中心とした著作権管理事業を開始（事業開始当初の管理範囲は「録音権」と「インタラクティブ配信」）
2003年	4月	MCJPにて、デジタルディストリビューション（DD）事業を開始（2006年7月、同事業はイーライセンスへ移管）
2006年	4月	民間事業者としては初となる、管理範囲の拡大に着手。同月より「放送・有線放送」における著作権管理を開始
2007年	4月	「出版権等」「貸与権」「業務用通信カラオケ」における著作権管理を開始
2009年	11月	米国 ニューヨーク州に、Cool Japan Music Inc.設立（現在はグループ外）
2011年	7月	100%子会社としてシステム開発・運営を行う株式会社イーライセンスシステムズ（現NexToneシステムズ）を設立
2013年	9月	台湾 台北市に、音楽出版社として酷亜音楽股份有限公司（One Asia Music Inc.）を設立（現在はグループ外）

年	月	株式会社ジャパン・ライツ・クリアランス
2000年	12月	著作権等管理事業を主たる目的とし、東京都中央区築地1丁目に、株式会社ジャパン・ライツ・クリアランスを設立
2001年	10月	著作権等管理事業法施行を受け、著作権管理事業者としての届出を行う（登録番号：01011）
2002年	4月	J-POPなどメジャーシーンで活躍しているアーティストの作品を中心とした著作権管理事業を開始（事業開始当初の管理範囲は「録音権」と「インタラクティブ配信」）
2005年	9月	iTunes Music Store にて、日本人アーティスト・楽曲では初めてとなる「日本発全世界同時配信」のコーディネート及び配信業務を手がける
2008年	3月	国内音楽著作権管理事業者として初となる、YouTubeにおける音楽利用に関する包括的許諾契約をGoogle社と締結

年	月	株式会社NexTone
2016年	2月	株式会社イーライセンスと株式会社ジャパン・ライツ・クリアランスが合併し、株式会社NexTone設立
2017年	4月	著作権管理事業を統合し、新たな管理体制でスタート（管理範囲は演奏権以外全て）
2017年	8月	YouTubeにおける管理著作物の利用に関して「データエクスチェンジ機能に基づく利用許諾契約」を、世界中の著作権管理事業者の中でも最初期のタイミングでGoogle社と締結。グローバル時代の著作権管理事業の先鞭をつける
2020年	3月	東京証券取引所マザーズ上場

決算年月 (*単体決算)		2017年3月*	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月
売上高	千円	1,604,432	2,331,899	3,239,801	4,345,481	6,122,925
経常利益	千円	36,085	103,467	186,254	295,228	540,013
親会社株主帰属 当期純利益	千円	41,676	61,283	129,593	191,488	376,979
資本金	千円	659,262	819,762	819,762	1,113,012	1,152,882
発行済株式総数 (注)	株	11,380	13,520	13,520	3,079,000	9,502,800
純資産額	千円	793,115	1,209,269	1,343,632	2,120,821	2,577,541
総資産額	千円	1,598,135	2,645,587	3,135,846	4,246,891	5,592,819
1株当たり純資産額	円	69,693.82	89,349.46	98,954.34	229.60	271.24
1株当たり当期純利益	円	3,919.90	5,379.67	9,585.29	23.56	40.71
自己資本比率	%	49.6	45.7	42.7	49.9	46.1
自己資本利益率	%	5.8	6.0	10.2	11.1	16.0
営業キャッシュフロー	千円	–	295,301	530,255	927,175	1,259,388
投資キャッシュフロー	千円	–	▲157,140	▲86,912	▲231,816	▲213,218
財務キャッシュフロー	千円	–	321,000	▲15,000	586,500	79,740
現金及び現金同等物の期末残高	千円	–	1,602,647	2,031,254	3,313,113	4,439,022
従業員数	名	47	57	62	63	80

(注) 2020年1月15日付で普通株式1株につき普通株式200株の割合で株式分割を実施。また、2021年2月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施。
1株当たり情報については、2020年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】
株式会社NexTone 経営企画部
ir@nex-tone.co.jp
<https://www.nex-tone.co.jp/inquiry/>